

事業名 桃の川地区 水辺の楽校プロジェクト事業

治水安全度の向上を図りつつ、豊かな自然環境を保全するため、学識経験者や地元住民代表者からなる委員会を設立し、伊万里市の公園整備事業と一体的整備を行い、水際へアクセスしやすく安全で自然豊かな水辺空間を創出した利用者等の評価の高い事業



緩傾斜堤防

受賞機関 国土交通省九州地方整備局
武雄工事事務所
事業実施期間 平成9年10月1日～平成12年3月30日
事業費 601百万円

事業等の特徴

子供たちが自然と接することのできる水辺は、地方部でも減少しているが、そのような観点で整備される事例は都市部に比較すると少ないのが実状である。

このため、こうした取り組みを地元、特に学校関係者との協力関係のもとに進めてきた。「水辺の楽校」は地域のバックアップとソフトが重要であり、その点を認識したうえで取り組んだ。

事業の概要と利用者等の評価

一級河川松浦川の流域では20数年前には螢臨時列車がでるほどの名所であったが、近年は水辺で遊ぶ子供達や螢の舞う姿が見られなくなった。

このような状況のなか、松浦川の河川改修に併せ平成6年建設省を母体とした「桃の川多自然川づくり検討委員会」設立し、平成9年1月に建設省の「水辺の楽校」の登録を受けた。同年9月には桃の川親水公園「水辺の楽校」整備推進協議会を設立し、地域と連携を取り合いながら官民一体を合言葉に平成9年度工事に着手し、平成12年3月完成した。

完成後の公園管理は、町組織の松浦町まちづくり協議会を中心に地域住民主体による管理運営を行なっている。

公園施設は敷地面積21,000㎡を有し、休憩施設、多目的広場、駐車場を備える一方で、ホタル水路や松浦川旧堤部の中之島周辺をビオトープの自然環境ゾーン、せせらぎ水路や新堤の緩傾斜部を水辺広場

の活動ゾーンとし、人と生物が共生する空間づくりを創出した。

自然と生物が共生する空間づくりの公園として開校したが、山と川に囲まれ自然豊かな当町にあって、当公園の効果に疑問の声もあったが、水辺で遊び、学ぶことを軸にした多目的な場としての当公園における評価は高まり、平成13年2月には松浦町の区長会において、日常のふれあい広場、自然体験学習ができる公園として「水辺の楽校」の定期開校を実施するなど全面的に支援する決議がなされた。(支援費についても今後のまちづくり協議会で検討する)

当公園は、本川部及び中之島周辺を自然体験ゾーンに設定していることから、柵など進入制限を行うものは設けていない。また、降雨時の水位上昇に対する安全性の確保について、地元(学校、PTA)との間に利用者責任(子供の遊ぶ能力の度合いや保護者同伴)の認識に対する温度差があったが、この解決策として、本川とせせらぎ水路の合流点に水位計を設置し、また、事故時の対応として救命浮輪を設置するなどの対応を行った。瑕疵問題は親水施設であればあるほど事故多発の危険性が高くなると考えられるので、事故回避の有効手段である利用責任における安全意識向上のため、啓蒙活動を今後も続けて行く。

審査委員会委員の意見等

- ・多様な利用の「かたち」である。
- ・2002年からスタートする小学校での総合学習にも応用できる可能性がある。子供の自然への興味を引き出すソフトを期待したい。

受賞賛助会員 (株)アイ・エヌ・エー九州支店